

陽気だより

養徳社 検索

ホームページからご覧いただけます

No.38 2010.5.15

第4号(24年8月号)から

「陽気」は、昭和24年4月の創刊、今年で61年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。



天 高知 堀内 房子

ころびしがまた起き上り泣きもせて駆けゆく童のひたすらの瞳

地 岐阜 吉村比呂詩

天才もただに努力の集積とみづから励み夜更けもの書く人 奈良 野澤 寛

意味もなき紙芝居見つこの街の子等は次第に育ちゆくらし

佳作 岡山 兒島 麦秀

われに向ひ孔雀は羽根をひろげたり胸のときめく春の真昼を

群馬 後藤 要司

なつかしき修養科時代の写真見てわが師今なきことを悲しむ

徳島 田中美恵子

電髪をやめて幾月素直なる黒髪梳けば母はよろこぶ

岐阜 小川 秀治

うつし世にひとりの人とわがごときを頼める妻は寂しからまし



天 京都 谷口 紫陽

妓をやめて田を耕すに余念なし

評 有為転変、しかも土にまみれて我を忘れて働いているのがいい。

地 三重 前川 省三
雛箱をとりいだすなり篝乃火

評 真綿で作ったあの紅いまことしやかな焰、いい着眼である。

人が 奈良 藤井 成美
わが佇てる地より春泥はじまりぬ

評 春泥の道にさしかかろうとして立ちどまったのである、それをこういう風に詠ったのが面白い。



天 滋賀 黄瀬 美秋

下着しか縫えぬミシンももつて嫁き

評 嫁入道具のミシンは、嫁つてから役に立たぬ琴よりはマシかも知れぬが、気の利いたもの一つも縫えないミシンを……という皮肉を詠んでいる。今の世相がよく描

かれてる。

大阪 杉谷 一栄

花嫁のミシンと知れる置き所

評 新婚の家、昔なら鏡掛の派手な色が目立つのだが……

人 大阪 廣岡 百宵

ミシン買わしてもダンスはやめません

評 ミシン買うから、ダンスはおやめといわれていたが、こんなうまいことをいう。我がままな近代女性。

女性。



題「重くて軽いものは」

編集部選

天 金沢 岩本 正吉

近代女性の尻と口

評 近代女性の最も痛いところをついて妙。

地 東京 増永 槐

御授訓の御かき下げ

評 同じ意味のもの多数あったが、先着をとった。

人 兵庫 佐野 正一

持ってあげた美人の荷物

評 もっと外に持つものありませんか?

佳作 名古屋 森 一好

吉田首相の議会答弁



月 日

ペン先、便箋、封筒、ピンは勿論のこと、ノート、算盤、スタンプ台から日付印の類まで、およそ事務用品と名のつくものは残らず取り揃えてあるのが、吉岡武雄の引出しである。そこで自然に、「クリップを二、三本」とか「ちよつと糊を——」という注文が殺到する。はては用度係の大西孝晴までが、「すみませんが吸取り紙を二、三枚——」

という始末で、仕事が手につかぬとボヤいてるところへ現れた上田理太郎。

「オイ便利屋さん、タバコはなにか」
眼を白黒した吉岡武雄、憤然として、

「タバコは煙草屋にあります」



信仰例話（『真実の道』より）

種というもの

「信仰なんかしてなんの役に立つのか、どんな得があるのか」と、よく聞かれます

が、私は「種と同じように蒔いただけのものが生えて来るのが信仰の世界で、種蒔きしないものに得も損も又生える喜びも分るものではない」といっています。

信仰の喜びは、味わったものだけが知り得る世界です。

私は小さい時から種をいじくって六十四才の今日にいたっているのですが、種の良否は作物の生命となるものだけに、この五十年間

「良い種」ということについては、実に生命を削られる思いをして来ました。ところが種というものは見ただけでは仲々良い悪いが分らないもの



です。その中に宿している生命というものが良い作物とも、悪い作物ともなるのです

よって、絶対に良い種を作ることが出来る信念をつかむことが出来ました。

昨年春から私は参議院議員として御奉公させて頂いておりますが、その前京都府会議員時代でも、飲み食いするよな会合には一度も出席しないようにつとめたものです。それは私の信念が許さなかつたからです。

「蒔いたる種はみな生える」「蒔かぬ種は生えぬ」というお言葉がありますが、

このお言葉は、種屋だけに私には身にしてみてもまされたものであります。悪い種は蒔かぬよう、良い種はどしどし蒔くよう少しでもつとめて来ることが出来たのも、信仰のおかげ、信仰の力であつたと思ひます。

斯界（かき）において有数と謳（うた）われているタキイ種苗会社社長、滝井治三郎氏はかく語つた。
（時報特別号 昭二六・三・二五）

大好評！

大地を駆ける伝道者たち

北海道に血と汗と涙を流した伝道の記録

初の地域限定おたすけ実録集

天理教北海道教務支庁編
四六判並製 304 頁
定価=1,575 円（税込） 千200

図書出版 養徳社
天理市川原城町 388
☎(0743)62-4503
http://yotokusha.com/

「陽気」創刊 60 年記念出版

人生二終なし

じんせいにおわりなし

—父 柏木庫治を語る—

- 三人の兄妹によるてい談
- 「陽気」掲載記事
- 柏木庫治小伝

定価=1,260 円（税込） 送料 200 円

「陽気」創刊 60 年記念出版

道の八十年

—松村吉太郎自伝—
天理教の歴史とともに
生き抜いた信仰軌跡

松村吉太郎 著 定価=1,680 円（税込）
（高安大教会初代会長） 送料 200 円

「陽気」創刊 60 年記念出版

お道の人のおとておきの話

お道の人のお美しい心象風景 52 話

朝席・夕席に最適です

定価=1,260 円（税込） 送料 200 円

養徳社 よもやま話

○……お世話になったある先生が、先ごろ出直されました。享年六十七歳、惜しまれる急逝でした。詰所を預かって三十五年、帰参する誰にも隔てなく声をかけ事務全般を司り、修養科生や講習生の面倒を親身に見られました。

そのご生涯で特筆すべきは、一男二女の素晴らしいお子さんたちを育てあげられたことです。このご夫婦の長年の伏せ込みのたまものと拝察いたします。

先生に教えていただいたことを、一生の宝として、大切にしていきたいと思います。本当にありがとうございます。

○……リビングのカウンターに、妻が「すずらん」を活けた。「かわいらしいやろ」と言うから、「毒のある花ほど美しい、と言うからな」と間接的に褒めた？ つもりが流されてしまった。私のセンスが悪いのか？ まさか妻はずずらんも、自身も毒のあるのを知らないのか……？

「陽気」年決め誌代のご案内

5月号より、一部定価二百円（税込）に改定いたしました。年決め誌代は次の通りです。

【半年分】一、六〇〇円
【二年分】三、二〇〇円

（一部送料共）